子供 コロナとどう共生

学力差解消 教材「見える化」

白梅学園大学教授
増田修治氏

ますだ・しゅうじ　埼玉大教育学部卒業後、28年間の小学校教員生活を経て現職。小学校の教員を目指す学生を指導。専門は臨床教育学、教師教育論など

新型コロナウイルスの感染拡大から2年近く。子供の日常生活は制限され、学習の遅れや体力、視力の低下がみられる。外遊びやクラブ活動の自粛も余儀なくされてきた。ウィズコロナで子供の生活をどう取り戻すのか。「第6波」も懸念される中、コロナの影響と今後の対策を専門家に聞いた。

――小学生の学習面での遅れが指摘されている。

「今の小学2年生は入学したときから休校になった。ひらがなの習得などが不十分なまま、1年生の6月からの速い授業に付いていけない子が現れた。学級崩壊している2年生のクラスでは学習の遅れが『荒れ』の背景にあることもある」

「入学当初は学習の姿勢や、鉛筆の正しい持ち方などを身につける時期だ。不十分だと後の学年に影響する。3～4年生も学習の難易度が上がる時期に休校が重なり、うまく対応できない子が出てきている。小学校教員にアンケート調査をしたところ、64・5%が『休校後に学力差が広がった』と回答した」

――対策は。

「落ちこぼれる子が出ないように教材に工夫をする。例えば、私は1年生向けに長音・促音・拗音などを『見える化』する教材をつくった。個別に深く学ぶためのGIGAスクール構想（全国の児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する取り組み）を進めることも大事だ。家庭でも子供の様子をよく見てほしい」

――マスク生活が続く。

「非言語コミュニケーションの不足が心配だ。乳幼児は親や保育士の顔を見ながら表情を学ぶ。笑顔は口元によく現れる。マスクを付けていると保育士が喜んでいるのが分かりづらい。子供自身の表情もとしくなり、相手の気持ちを読む力の発達に影響するのでは」

「対策の一つとして『ベビーサイン』がある。うれしい、おいしいなどをジェスチャーで表現してもらう。米国発祥で、サイン自体は独自に決めても構わない。身ぶりで感情を表すと表情も付いてくることが多いので、『おいしそうな顔をしているね』などと褒める。アウトプットを学ばせることでコミュニケーションを活発にする試みだ」

習い事で多忙 見直す契機

日本体育大学教授
野井真吾氏

のい・しんご　日本体育大大学院修了、博士（体育科学）。埼玉大准教授などを経て現職。子供の体の研究を続ける。専門は教育生理学、学校保健学など

――コロナでの活動制限が体に与えた影響は。

「休校になったり外遊びやクラブ活動が制限されたりし始めた昨春以降、『骨折が増えた』『体調を崩すことが多い』という話を保健室の先生から聞くようになった」

「外遊びの効果のひとつに、光を浴びて神経伝達物質のセロトニンを生成させることがある。セロトニンはメラトニンという眠りを誘うホルモンの元となる。屋外活動の減少、ゲームやスマートフォンを夜遅くまで見ることで、夜行性に傾いた子供もいるだろう」

「もうひとつ心配なのが視力の低下だ。文部科学省の調査でも、裸眼視力が1・0未満の小中学生の割合が過去最悪を更新した。学習も含めてだが、スクリーンを見る時間が増えていることが影響しているとみられる。日の光を浴びると近視予防になるという研究もあるので、外遊びの減少が近視の進行に影響しているのかもしれない」

――どのように活動量を戻していけばよいか。

「体力が急激に戻るわけではない。クラブ活動や放課後の習い事などは子供の主体性を大事にして、徐々に増やしていくのがよいだろう」

「そもそも日本の子供たちは忙しすぎた。国連・子どもの権利委員会からも『社会の競争的な性格によって、子供時代と発達が害されないような措置をとるべきだ』と勧告されている。クラブ活動や習い事をこれまでのペースに戻すのがよいのかは議論の余地がある」

――子供の主体性を大切にするためには。

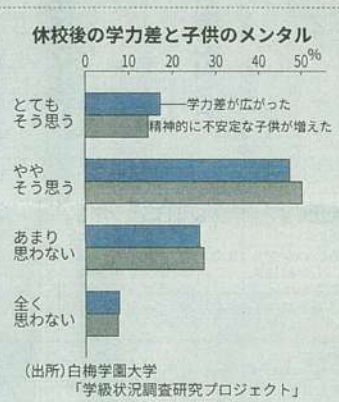
「人間には発達欲求がある。心配しすぎなくても、子供たちは友達と群れ、体を動かし、体力もある程度は戻ってくるだろう。スクリーンを見る時間が長すぎる子には、体力や視力などに与える影響を説明し、自分で考えて納得してもらうことが重要だ」

「3密」必要な場合も

白梅学園大の増田教授らが今年2～3月に東京・埼玉の小学校教員に実施したアンケート調査（有効回答数319人）では、長期休校後に「精神的に不安定な子供が増えた」と感じた教員が64・6%いた。

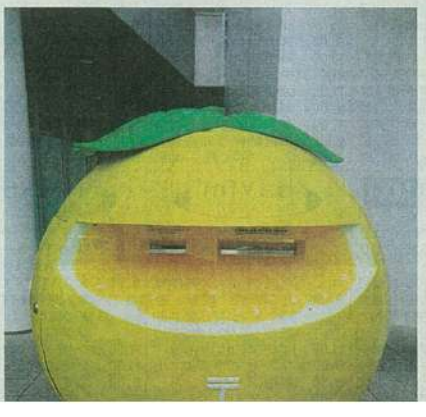
調査は「コロナという病気そのものや、日常生活に不安があるなかで、友達と遊んでストレスを解消したり気持ちを共有したりする機会も奪われた」と分析する。野井教授も「密集、密接、密着という『3密』こそが子供を育ててきた面もある」と指摘する。

コロナ以前から、放課後に友達と遊ぶ機会が少なく、大人主導で運動や習い事を詰め込まれている子供はいた。ウィズコロナでは、これまで以上に子供同士で自由に遊ぶ時間を確保することも必要だろう。（砂山絵理子）



（出所）白梅学園大学「学級状況調査研究プロジェクト」

気になるスポット



「日向夏ポスト」幸

11月の大型商業施設「アプラザみやざき」の開業にわせて整備され、大きなをとげた。大屋根にクリスマス向けのイルミネーション飾られるなか、新しいシルとなりつつあるのは宮崎駅西口駅前広場は、昨年夏ポスト」だ。

太平洋に面した「南国」宮崎は冬場が観光シーズンだ。

大分・三和酒類「和

覚の清酒、食用米で

大分県北部の穀倉地帯では酒造りが盛んだ。1958年設立の三和酒類（宇佐市）は本格麦焼酎「いいちこ」（79年発売）で知られるが、祖業は日本酒。共同瓶詰め場としてのスタート当初から「和香好符（わかほたん）」ブランドの清酒を売ってきた。近年は地元でとれる食用米（飯米）でワイン感覚の酒も醸し、品評会で高評価を得ている。

JR日豊本線柳ケ浦駅から車で約20分。三和酒

い。適度に
を含む軟水
がらくみ
清酒を造る
連設備に
「虚空乃蔵
蔵人た
く意見を出
念に一念に
2013年
ールした
のコメ
く」という
加えた。原
適米の「山
使うが、